

# 市民が主役のまちづくり

～シンボルプロジェクト企画発表会開催～



さまざまな企画が発表されました

2月17日、昨年の6月のキックオフ会議を皮切りに、シンボルプロジェクトのメンバーが考えてきた企画をお披露目する場として、ガレリアかめおか2階大広間で企画発表会を開催しました。同プロジェクトは、まちづくりの最上位計画である「第4次亀岡市総合計画」夢ビジョン後期基本計画において、「京都スタジアム(仮称)と京都・亀岡保津川公園を活かしたまちづくり」のテーマのもと、市民と行政が同じスタートライ

ンに立って、亀岡をより良くするための企画を考え実行していくものです。

会場では、スポーツや観光などのにぎわいづくりに関するものだけでなく、地域コミュニティや市民交流を生み出すための提案、また子育て環境に関するものなどの7つの企画が発表されました。会場を訪れた人にはそれぞれ審査票を提出いただき、その結果を踏まえ、今回発表された企画のうちいくつかのものについては、来年度から2020年度末にかけて、シンボルプロジェクトメンバーが主体となって、亀岡市と一緒に実行していく予定です。



多くの質問や助言をいただきました

各グループの熱の入った発表に桂川市長から「素晴らしいまちづくりの提案をいただきました。皆さんと共に今後のまちづくりに活かし、実行していきたいと思えます」と講評がありました。

## 亀岡市議会 議長と副議長が決定



齊藤 一義議長



藤本 弘副議長

2月13日、平成31年亀岡市議会2月特別議会が開かれ、第43代議長に齊藤一義議員(新清流会)、第54代副議長に藤本弘議員(公明党議員団)が選出されました。

任期は、申し合わせにより議長・副議長共に1年です。齊藤議長は平成23年に初当選されて以来、現在3期

目。これまでに市議会副議長や議会運営委員会委員長などを歴任されています。

藤本副議長は、平成19年に初当選されて以来、現在4期目。これまでに、亀岡市監査委員や産業建設常任委員会委員長などを歴任されています。

## より豊かなまちづくりのために

～コミュニティ助成事業～

亀岡市は平成30年度(一財)自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用し、亀岡ゆかりの芸術家による文化・芸術の振興事業や発



亀岡ゆかりの芸術家によるアートイベント

電機をはじめとする防災備品の整備を実施しました。

同事業は、宝くじの収益金をもとに、安全な地域づくりへの支援やコミュニティ活動の充実を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を目指すものです。

### 地域で芸術を育む

文化・芸術の振興事業では、11月25日にガレリアかめおかで霧をテーマとしたアートイベント「霧の芸術祭 キックオフイベント」を開催。



にぎわうワークショップ

亀岡ゆかりの芸術家による展覧会やトーク、ワークショップを実施し、文化・芸術を身近に感じる機会となりました。このほかにも、地域の人たちに芸術に親しんでもらうワークショップの開催を予定しています。

### 災害への備え

また、災害発生時に必要となる発電機・投光器などの防災備品は、地域の防災拠点となる各自防災会に配備。夜間における避難所運営や各



防災備品を配備

種活動に使用し、地域の防災力向上を図っています。

亀岡市は、これからも市民の皆さんが安全で心豊かに暮らすことができるよう、まちづくりに取り組みでまいります。



## 第三百九十九回 明智光秀 文化財めぐり

②

明智光秀はいつ生まれたのでしょうか。今から500年くらい前の永正13(1516)年や享禄元(1528)年など諸説あり、残念ながらはっきりとした年はわかっていません。また、若い頃にどこで何をしていたかも史料が残っていないことからほとんど不明です。ただ、当時の公家の日記に、光秀が美濃国(現岐阜県)にいる親戚と連絡を取っていたことが記されており、光秀は美濃国の出身だといわれています。岐阜県には明智という地名があり、伝承ですがゆかりの地として「明智城跡」や「光秀産湯の井戸」などがあります。



▲明智光秀産湯の井戸(岐阜県恵那市)

光秀が織田信長の家臣になって頭角を現すのはもうちょっと後のことと、当時の人の年齢からいうと遅咲きということになります。大河ドラマでは、若い頃の光秀を描くといわれていますが、謎の多い部分ですので、どのように描かれるのか楽しみです。

【典拠】「兼見脚記」元龜3年12月11日条、「針葉方・獨見集」(米田家文書)